

第 40 回あいち学童保育研究集会レポート

【クラブ】(あそびばクラブ) 【名前】(島田歩実) 【立場】 (保護者 or 指導員)

① 午後に参加した分科会の名称をお書きください。

第(3)分科会 名称(現代の性教育について)

※午前の全体会のみに参加した場合は、全体会講演の名称をお書きください。

② 全体会講演や分科会に参加して、心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください(自由記述)。

全体会での杉田先生のお話をお聞きした中で感じるものがたくさんありました。「肌の色が違ってみんな平等だと運動が起こった」と仰っていましたが、そもそも、何と比べて「違う」のか、そんなこと誰にも決めることはできないはずなのに、無意識の中で、少ないものや珍しいものを排除しようとしてしまう考え方はずっと残ってきたのだなと感じます。何が「普通」であるかなんて言い切ることができないはずなのに、「自分たちが普通という考え方になってしまいがち」という杉田先生のお言葉はハッとさせられました。「いろいろなカタチ」があるということを感じる場面が最近増えてきているなと感じています。そんな中で、今回杉田先生がお話してくださったことは、自分も含め、少しずつでも考え方や捉え方が柔軟になっていくために必要であり、大切な機会だったなと実感しました。

「普段の何気ない生活やあそびの中で、自分が認識する性別が異なる子どもは安心して過ごす権利を奪われてしまっている」というお言葉をお聞きして、自分の保育を振り返ってみました。イベントで配布する物の色を性別によって分けてしまっていたことがあったなと思います。それが悪いわけではなくて、男の子が青で女の子がピンクでいいよ、って思う子もいると思います。しかしもしかして大人の勝手な性別分けが誰かを傷付けてしまうことになるかもしれないということを心に留めておかなければいけないと感じました。「いろいろなことを学べば学ぶほど選ぶ言葉が変わる」と仰っていたように、これからも学んでいくことで、目の前の相手に合った配慮をしていけるといいなと感じました。

最後に、「ひとりひとりを大切におもっていることそのものが、多様性を大切にしていることだと思う」というお言葉が特に心に残っています。大人でも、指導員でも、分からないこともたくさんあるし、子どもたちから教えてもらっていることがたくさんあります。日々の生活の中で、目の前にいるひとりひとりの子どもたちから教えてもらおうという姿勢、耳を傾け、よくきくこと。その子が自分らしくいられるような努力をこれからも大切に積み重ねていきたいなと思っています。大切に積み重ねることで、自分自身が好きなものや興味のあるものに対して恥ずかしい気持ちにならずに、自分を安心して好きでい続けられる、安心して自分を表現できるような環境になっていくようにしたいなと思いました。

分科会での玉木先生のお話の中で、「何でも平等にすればいいわけではない」というお言葉がありました。「その人」を大切に、何を思っているのか、どうすることがその人にとって最善なのか、よく考えていきたいなと思いました。「知識がある大人だから子どもたちも相談しようと思える。それで救われる子がいる」というお言葉も特に心に残っています。安心して相談しようかなと思ってもらえるようにするためには、自分の中に正しい知識を身につけることもとても大切な一歩なのだと感じました。子どもたちに大切なことを大切だよと伝えていけるように、これからも学び続けていこうと思いました。